

大和田円光院の元禄七年庚申塔の銘文などの補遺・訂正

巖 由美

はじめに

『史談八千代』42号に掲載の大和田円光院の元禄七年（1694）庚申塔の銘文について、42号発刊後の2017年12月26日に、房総石造文化財研究会の早川正司会長が現地調査に来られ、拓本を採り、また夕方の薄暮の中ライトを当てて丁寧に検討された結果、以下のように、21名の人名の解読結果を提供され、また主文の読み違い等もご指摘いただいた。早川会長のご指導に篤く感謝すると共に、前号記事を謹んで補遺・訂正します。

1. 再調査による補遺・訂正

「5 大和田・萱田町のムラの講の石造物 1.庚申塔」に掲載した大和田円光院の元禄七年庚申塔について、P69の本文とP70の「表1」「I-O-1」を以下の通り訂正する。

・P69の本文の下から7行目

（誤）「このうち笠付角柱型の元禄7年銘塔は、六臂合掌型の青面金剛供養塔で、左右側面に多数の人名が彫られているが、風化が著しく拓本を採っても判読できなかった。」

（正）「このうち笠付角柱型の元禄7年銘塔は、六臂合掌型の青面金剛供養塔で、左右側面に21名の人名が彫られている。」

・P70の「表1 大和田・萱田町の庚申塔一覧表」の「I-O-1」の銘文欄

（誤）「奉造立青面金剛 為二世安楽也 敬白 （人名多数・判読不可）」

（正）「奉造立青面金剛 □□二世安楽処/敬白/道行升一人/[]門□郎/勘右エ門/
伊□□/□左エ門/七兵衛/儀三良/清兵へ/久兵へ/平兵衛/方壽/勘□郎/久□□/甚
兵へ/勘左エ門/傳三良/金兵へ/伊兵へ/又太良/勘四良/伴□右エ門
（[]と□は不明、□で囲んだ文字は推定）」

2. 結果と考察

早川氏のご協力により、本石塔の人名21名中8名が判明、また6名が推定できた。

「勘右エ門」（推定）は、家名（いえな）として時代は下るが、文久2年（1862）と明治7年（1874）の出羽三山供養塔の銘にある「新谷勘右エ門」の可能性がある。また、「伊□□」は、天明6年（1786）「伊三郎」と文久2年と明治7年の「御山伊三郎」の可能性が否定できない。

以上、の造塔に21名が関わり、またその半数の人名が判明できたことから、江戸前期の17世紀に遡る大和田村成立期のムラの様相を知る史料として、貴重な石造物であることをあらためて再確認できた。

調査 No. I -O-1	通し No.12	市史 No.12	庚申塔	所在地：大和田 円光院
造立年月日： 元禄 7 甲戌・10・吉 （1694）			形状：笠付角柱型	
像容：青面金剛			法量：111×45×45 cm	
銘文： 奉造立青面金剛 □□二世安樂処 敬白 道行升一人（人名多数）				
左面			正面	
道行升一人 □右工門 勘四良倅 又太良 伊兵へ 金兵へ 傳三良 勘左工門 甚兵へ 久□□ 勘□郎 方壽			奉造立 青面金剛 □□二世安樂処 （合掌六臂型青面金剛像）（邪鬼）（三猿） 元禄七年甲戌十月吉日 敬白	
右面				
平兵衛 久兵へ 清兵へ 儀三良 七兵衛 □左工門 伊□□ 勘□右工門 門□郎				



追記

その他、『史談八千代』42号「5 大和田・萱田町のムラの講の石造物」において、以下の誤記がありましたので、陳謝し、訂正します。

・P69 本文下から5行目 誤「八千代市内では12番目に」⇒正「八千代市内庚申塔では12番目に」

・P79 本文上から5行目 誤「宝永2年銘塔」⇒正「宝永5年銘塔」

・P80 本文下から10行目 誤「宝永3年」⇒正「宝永2年塔」

・P92 表の「Ⅲ-K-6」と「Ⅲ-K-7」の所在地 誤「大和田円光院」⇒正「萱田町薬師寺」

・P93 表の「Ⅲ-K-8」と「Ⅲ-K-9」の所在地 誤「大和田円光院」⇒正「萱田町薬師寺」